

令和4年度 生活支援コーディネーター活動報告

担当者	千寿の里西小田 浅川信之	担当圏域	明世地区、瑞浪地区
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・当施設で行っている認知症カフェにおいては計5回の開催(4月～10月。8月、9月は中止。)で延べ利用者数37名(重複及びボランティアの方を含む)であった。コロナ禍以前は年平均で247人の利用があった。1名ではあるが、認知症当事者の方にも参加して頂くことが出来た。また、ボランティアグループの方の活動の場となっている。 ・生活支援コーディネーター会議には計7回参加し、各地区での活動状況の共有、第2層協議体の編成に向けての取り組み(意見交換、Web研修への参加、勉強会の検討)を中心に生活支援体制整備事業の推進が図れる様に取り組みを行っている。 ・生活支援コーディネーター資質向上研修会(Web)に参加し、生活支援体制整備事業への理解を深めるとともに今後の取り組みへの助言を頂いた。 ・民生委員児童委員協議会においては各地区ともに計7回参加し、各地域の状況、ニーズの把握であったりネットワーク構築の場として活用している。また、支援が必要な方に対しては地域包括支援センターに相談して頂くなどの助言を行った。 ・地域のサロンに関しては休止している所が多く、参加することが出来なかった。 ・認知症サポーター養成講座については、高校生を対象に開催し認知症に対する理解や当事者の方への接し方を学んで頂いた。 		
問題課題	<p>新型コロナによる活動への影響が現在も続いており、認知症カフェやサロンなどにおいては感染対策を十分に取しながら活動を行っているところもあるが活動を休止しているところもある。</p> <p>新型コロナに関しては、それぞれ受け止め方や考え方が違う事が見られる点もあり、活動に対する足並みをそろえることが難しいと感じた。しかし、できる限り活動が途切れなように規模を縮小したり、時間を短縮したりなどの工夫をしながら活動の継続性を検討していく必要もある。</p> <p>生活支援体制整備事業を推進するにあたり、関係機関及び地域住民の方が制度や内容の理解を深めていく場が必要であり、具体的にどのように行うのかを引き続き生活支援コーディネーター会議などで検討していく必要がある。</p>		
今後の活動	<p>生活支援コーディネーターの存在や役割、活動を多くの方に認知して頂くことが先ずは重要である。</p> <p>現在も新型コロナによる影響は見られるが、認知症カフェやサロンにおいてはどのような対策や工夫を行えば活動を止めることなく継続できるのかということを検討していく必要がある。</p> <p>生活支援体制整備事業においては、地域住民の方が主体となり、第2層協議体を編成することや互助を基本とした生活支援活動(継続性がある)をサービスに引き上げることを目標とする。</p> <p>各地区の団体や地域のサロンなどに参加し、情報収集及びニーズの把握を行う。新しい社会資源の開発を行えるようにしたい。</p>		

令和4年度 生活支援コーディネーター活動報告

担当者	みずなみ陶生苑 片桐 千絵	担当圏域	土岐・釜戸大湫・日吉地区
活動状況	<p>【生活支援コーディネーター会議参加】…(7回) ・活動報告、情報交換、勉強会打合せ及び研修への参加</p> <p>【サロン開催・参加】 ・オレンジサロン開催…(毎月第2・第4水曜日) 新型コロナウイルス感染拡大の為、7月より中止、11月再開。釜戸コミュニティーセンター多目的ホールにて実施(コロナ禍前は、みずなみ陶生苑施設内での開催) ・各地区サロン訪問…大湫地区『リアップひよも』防災講和参加。 ・ふれあいいきいきサロン代表者会議参加…土岐・大湫釜戸・日吉</p> <p>【地区会参加】 ・防災への理解・啓発を目的とするチラシの作成、宿区区長に回覧依頼。 ・釜戸町宿地区地域連携会議開催(地域防災の助け合い活動・今年度3回目) R4年度は防災会にご協力頂き、講演会の開催を目標に準備をすすめている。 ・支部福祉委員と民生委員・児童委員との交流会訪問。 ・民生委員・児童委員協議会訪問。</p> <p>【第1回勉強会に向けて、各担当者との打ち合わせ】(3回) ・釜戸地区まちづくり推進協議会と勉強会事例発表の打ち合わせ 『釜戸いきいきマイレージ てくてく釜戸健康マイレージ』参加。 世代、分野にとらわれず各地域の集まり等に参加し、情報収集・ニーズ・地域資源の把握に努めている。</p> <p>【恵那市支え合い活動交流会視察】</p>		
問題課題	<p>・コロナ禍の影響や、高齢化により存続困難な現状が多く、多くのサロンで顕著な問題となっている。一方で、今年度は逆境の中、サロン再開の声や、新しい取り組みの為に活動されている方々の存在もあり、明るい兆しが見られる。</p> <p>・まちづくり推進協議会と関わり、既存の取り組みに触れたことをきっかけに、地域の特性を知ることができた。地区によって、生活支援コーディネーターの活動が十分に行えていない地区があるため、今後も意識的に活動の場を広げていけるようにしたい。</p>		
今後の活動	<p>次の活動を通して、資源の発掘を行いたい。また、様々なつながりを作っていきたい。</p> <p>・釜戸町宿地区地域連携の為に地域防災の助け合い活動(防災会に依頼)計画再開 ・コロナ禍で実施できていないみずなみ陶生苑図書館の活用 ・気軽に相談できる地域に根付いた存在になるよう、引き続き各地区での生活支援コーディネーター活動の啓発 ・釜戸地区まちづくり推進協議会・てくてく釜戸マイレージへの参加及び勉強会の準備 ・近日中に土岐地区・大湫地区・日吉地区のまちづくり推進協議会より情報収集</p>		

令和4年度 生活支援コーディネーター活動報告

担当者	社会福祉協議会 岩島	担当圏域	陶地区・稲津地区
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会支部研修(陶1回・稲津1回・他に2層担当外の6地区)にて、福祉委員を中心に民生児童委員や区長等地域関係者に向け、地域での見守り助け合いの必要性について理解を促した。 ・民生児童委員協議会(陶3回・稲津3回)に参加し、地域の情報収集を進めつつ顔の見える関係づくりをし、地域関係者のネットワーク化に務めた。 ・地域資源の一つとなる「ふれあいいきいきサロン」現状把握として、社会福祉協議会にて地区別にサロン代表者連絡会を開催。2層担当の陶地区:7/27開催・稲津地区:12/6開催(予定)。2層担当外の6地区については、各担当2層コーディネーターに参加を案内し、地域情報の共有を進めた。 ・ふれあいいきいきサロン実施状況把握の訪問を、各担当2層コーディネーターと情報共有しながら行った。 ・地域の福祉関係者懇談会開催を啓発し、陶2回(4/19・12/8予定)・稲津1回(予定)参加し、地域で見守りの必要性和ネットワークづくりを進めた。2層担当外の6地区のうち開催した釜戸支部懇談会には、担当コーディネーターと担当包括へ案内し、地域情報の共有と、地域関係者のネットワークづくりを進めた。 ・生活支援コーディネーター会議に7回参加し、サロン等集まりの場の情報を関係者と共有した。また、第2層協議体設置に向けた方策を話し合った。 		
問題課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動を休止されているサロンが多い。サロンが再開できない理由としては、①参加者が多い大規模サロンで意見がまとまらない、②以前から運営が福祉委員等特定の世話係任せになっていたことで世話係の負担感が大きかった、役員が変更した時に引き継ぎがされておらず、実際のサロンを見たことのない後任が実施を躊躇し保留にしている、などが聞かれている。 ・各サロンでは「誰でもどうぞ」と呼びかけをしているものの、新しく加わる人が少なくほぼ開始当時のメンバーで継続しているサロンが多い。参加者の高齢化が進む中で人数減少が見られている。 ・社会福祉協議会が地域福祉活動を進めるうえで中心となる存在であり、重要な連携先の一つとなる福祉委員が不在の地域が出ており、地域の情報収集や見守りを進める人材確保が課題である。 		
今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンをはじめとした地域資源の情報収集を続け、実態把握を行う。 ・収集した地域資源を、各サロンや民生児童委員協議会・社会福祉協議会支部研修等にて情報提供し共有。 ・瑞浪市と連携し、地域資源のマップづくりを実施予定。 		